

## 私の戦中戦後

山梨県 渡辺 三郎

私は大正七（一九一八）年二月二十二日、山梨県南巨摩郡睦合村成島に、父茂一郎の三男として出生した。兄秀一郎、次男武雄、姉二人がいましました。「父は国立第十銀行睦合支店に勤務していたが、明治四十五（一九一二）年甲府に出て醸造家十一屋（君が代）に勤務、その後甲府市穴切町で酒類販売業を営む。私は子供ながら酒の配達をしたものです。

### 学歴

昭和五年三月 甲府市立穴切小学校卒業  
三菱名古屋航空機製作所青年学  
校研究科卒業

### 職歴

昭和五年四月 三菱名古屋航空機製作所入社  
昭和十二年 三菱重工業株式会社名古屋工場勤

### 務、職階伍長

昭和十四年八月 三菱重工業株式会社名古屋工場を兵役のため退社

昭和十七年十二月 三菱重工業株式会社航空機製作所名古屋工場に再入社

昭和二十年八月 退社

### 兵役

昭和十三年八月 山梨県南巨摩郡鰍沢町立鰍沢小学校にて徴兵検査 甲種合格

昭和十四年九月一日 満州国牡丹江航空兵教育隊に入隊

昭和十五年 第三十二戦隊爆撃隊に所属、同年

末上等兵

昭和十七年九月 伍長

昭和十七年十二月 除隊帰郷 三菱重工(株)に復職

### 軍隊体験

牡丹江は、冬は零下三〇度にもなり、風も強い

ので辛い。雪は粉雪でさらさら、尺余に積ることなく、風のために吹き溜りに堆積する。平坦の飛行場には、雪は地面に僅かに白い程度、土が見える。粉を撒いた程度だが風が強くと寒さが身にしみる。

冬飛行機のエンジンを温める作業あり、赤々とおこした炭火、温度が拡散しないよう、シートで機体を覆うのである。格納庫内の作業であり、シート内はエンジン温めの仕事だから温かく、それが一番楽しみの作業でした。

夏は四〇度にも達する。甲府は暑いと言っても四〇度になることは無い。満州は空気が乾燥しているから日向に出ると暑いが室内や木陰にいればさほどの暑さを感じない。さらっとしている。トマト、西瓜も作っている。夏は川で水泳する現地人もいる。

牡丹江は川幅百メートルはあろう。夏は葦が茂り、冬は全面結氷で自動車が行き、馬は氷上鉄、兵は防寒服、靴はフェルトの防寒靴と、まあ

満州の冬は大変だ。兵舎は「ペチカ」があり燃料は石炭。兵舎は街から遠く、牡丹江市には行ったこともない。演習ではハルピン、佳木斯、奉天（瀋陽）、北京（長春）に行った。航空隊の演習は遠くでも苦にならない。一飛びである。教育隊入隊直後に空中ブランコに乗せられ、何回も何回もやらされるのには閉口したが程なく馴れた。試験飛行の時に搭乗時に尾翼で右手親指を骨折、およそ一カ月余、牡丹江陸軍病院に入院する。

試験飛行に参加する。五千メートルの上空を飛ぶので手当がでるので楽しみにして参加した。航空隊の給養は一般の部隊より良いと聞かされたが、その通りだと感じた。もちろん一般部隊の兵食は知らないが、一般家庭や、私が長らく勤めた三菱重工（株）名古屋航空機製作所の食堂に比し相当良かったと今でも思っている。

航空隊の兵営生活に余りきついなと言ふことなく、私は常に一選抜で人事係准尉の見込みもよく、部隊副官の当番兵を長くやり、副官殿も大分気に入

つておられたと思う。兵長任官試験には各隊より一人が選抜され、私を含めて三人の内一人が合格、その一人に私が兵長に任官された次第です。

何事も積極的に行動し、体力的にも自信があったので、いつも先頭に立って行動したりで、自分で言うのもどうかと思うが何事でも人後に落ちることなく、常に一選抜、伍長進級も一選抜、そんな具合で航空隊勤務の満三年半は極めて平穩無事に過ごした日々と言えよう。

牡丹江駅はホームから地下道を通り改札口に出ると駅前広場があり、駅に対し向き合う形で立派な大和ホテルがある等話しをされましたが、飛行隊は街より五キロもあるので、牡丹江へ行ったことがあるが駅の所へは行かなかつたので地下道のことやホテルのことは知らない。

昭和十二年、三菱重工(株)名古屋航空機製作所で伍長となったが、兵隊にも伍長と言う位があるのは知っていて、字も同じなので、兵隊たち伍長クラスでまあまあ地位だと思っていました。七、

八人を取りまとめる班長と言うところであった。

#### 戦後

一 昭和二十三年渡辺鉄工所を個人創業。

二 昭和三十一年株式会社渡辺工業所を資本金一千万円、後増資して二千万円、いずれも社長です。十年程前長男に社長職を譲り、今は会長。

薬害で眼に障害があり、視力が甚だ悪く、甲府市の小宮山眼科医で治療中である。あと四カ月弱で九十一歳となる。眼以外は概ね健康だが、眼の悪いのは全く閉口である。

三 山梨県陸上競技連盟投擲、砲丸、円盤、槍投げの選手。昭和二十五年、甲府陸協競技連盟会長、山梨県陸上競技連盟副会長。

昭和四十四年六月、恩欠連山梨県連合会財務担当理事、恩欠連甲府支部副会長、山梨県連副会長、多少の寄付行為も致しました。

昭和十七年十二月除隊後一度も召集がなかつた。三菱重工で航空機製作に携わっていたからで産業

戦士と言うわけでした。南方などに行かず本当によかった。また戦後、それが鉄工所をやる「きっかけ」となり、私にとっては大変有意義であった。昭和五年以来、兵役の三年ほどを除けば、足掛け十四年三菱重工の御世話になった次第です。

## 航空無線隊として

群馬県 貝瀬喜武

私は大正十二（一九二三）年十月十三日、四人姉の長男として生まれました。父は教員でした。沼田小学校二年の時、父はふとした病で亡くなってしまいました。父が亡くなった後、子供四人を抱えた母は助産婦として働き、私達を育てていました。私は小学校を卒業すると東京に出て、東京発動機株式会社に勤務することになりました。

昭和十八年徴兵検査で甲種合格となり、入隊する日を心待ちにしていました。昭和十九（一九四四）年三月三十日、新潟県高田市の航空隊に入隊するようにとの通知が来て、勤めていた会社の皆さんから激励の送別会を開いて頂いて、勇躍航空隊に入隊しました。この部隊は北方のアッツ島で玉砕した山崎部隊長の後に出来たという部隊でした。